

## D. 兵庫県

### 1. 広域モニタリング調査

#### 1-1. 広域モニタリング調査地域の位置および概況（図1-1-1）

広域モニタリング調査地域は、兵庫県の南西部の龍野市、相生市、赤穂市、揖保郡新宮町、赤穂郡上郡町にまたがる地域で、1/25,000 地形図の「二木」図幅、標準地域メッシュの5234-23に相当する。

標高 400～600m の丘陵地ないし小起伏山地で、それを千種川及び揖保川水系の谷が下刻し、谷底低地も発達している。また、多数分布するため池もこの地域の水環境を特徴付けていている。土壌は、ほぼ全域の尾根部周辺に褐色森林土壌が広がるが、南部の尾根上には一部未熟土等が分布し、谷筋にはグライ土壌などが分布する。

第1回調査と第2回調査の植生図を比較したところ特に変化が見られないと認め、第1回調査時以降、大きな変化は特になかったと考えられるが、植生および土地利用の変化についての記述が全くなかったため、詳細は不明である。

#### 1-1-1. 地形・地質の状況

標高 400～600m の隆起準平原（吉備高原面）に相当する丘陵地ないし小起伏山地である。河川による谷が下刻し、谷底低地が北東一南西方向、もしくは南北方向に発達している。丘陵地、小起伏山地の北部は中世白亜紀後期の花崗岩類・安山岩類、南部は同時期の流紋岩類、中部は古生代の緑色岩類、泥岩類からなる。

#### 1-1-2. 水系の状況

瀬戸内海に流入する千種川もしくは揖保川水系の谷が下刻し、丘陵地を横切っている。また、この地域には多数のため池が存在し、これもこの地域の水環境を特徴づけている。

#### 1-1-3. 土壌の状況

土壌については、ほぼ全域の尾根部を中心に褐色森林土壌が広がる。南部の尾根上には未熟土や腐植土が分布する。一方、谷筋にはグライ土壌など低地性の土壌が分布する。

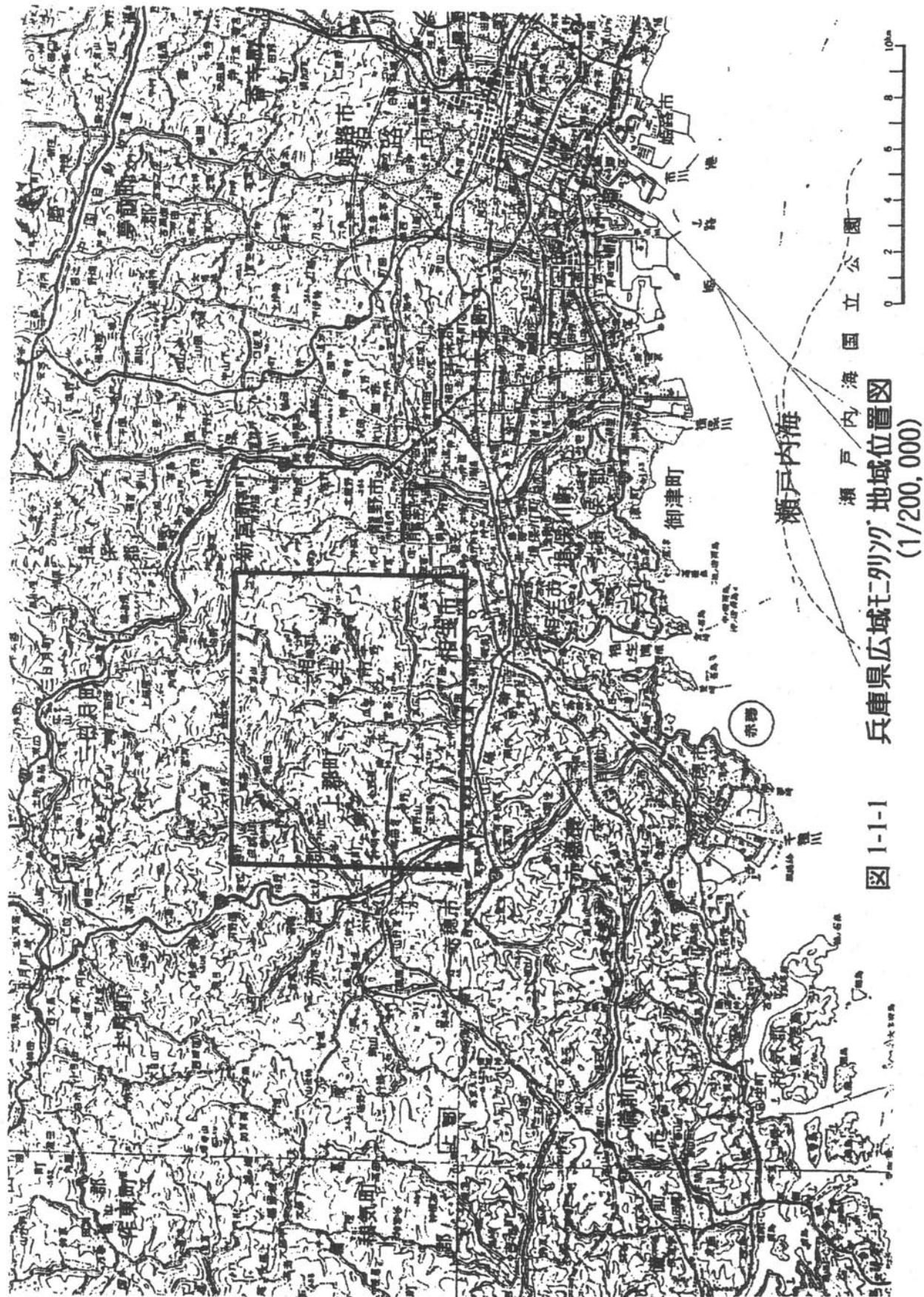


図 1-1-1 兵庫県広域二列ゾーニング地域位置図  
(1/200,000)

## 1-2. 植生

第2回調査時の広域植生図を図1-2-1に示した。

植生は大きく分けると以下の3つに区分される。

- ① 主に北西の山地部に分布するコナラ群落
- ② 南部から東部へ広く分布するアカマツ一モチツツジ群集
- ③ 河川沿いの低地に分布する水田雑草群落

第1回調査時と比較して特に目立った変化はない。従って、当該地域に出現した植生は第1回調査時と変わらないと考えられるが、第2回調査の植生についての記述が全くなかったため、詳細については不明である。

## 1-3. 植物相

第1回調査および第2回調査で確認された植物相の分類群ごとの科数と種数を表1-3-1に示した。

第1回調査では、1991年以前の文献調査により63科134種の植物を記録したが、第2回調査では、新たに74科687種の植物が確認され、あわせて137科821種となった。

表1-3-1 植物の確認種の状況（兵庫県）

分類群	第1回	第2回 (新規確認種)	第2回
シダ植物	10科41種	9科44種	19科85種
裸子植物	—	5科8種	5科8種
双子葉植物	46科77種	52科480種	98科557種
単子葉植物	7科16種	8科155種	15科171種
合計	63科134種	74科687種	137科821種

## 1-4. 動物相

第1回調査および第2回調査で確認された動物相の分類群ごとの科数と種数を表1-4-1に示した。

第1回調査では、1991年以前の文献調査により哺乳類4科5種、鳥類28科69種、昆虫類3科4種を記録したが、両生・は虫類、魚類は未確認であった。第2回調査では、新たに発行された1つの文献および現地調査により、哺乳類6科12種、鳥類6科25種、両生・は虫類10科22種、魚類5科21種、昆虫類211科1175種が確認され、あわせて246科1,253種となった。



# 凡例

ヤブツバキクラス域自然植生

- 13 ウラジロガシーサカキ群集
- 15 コジイーカナメモチ群集
- 16 アラカシ群落

ヤブツバキクラス域代償植生

- 21 コナラ群落

アカマツーモチツヅジ群集

- 24 ススキ群団
- 25 ネザサーススキ群集

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生（各クラス域共通）

- 26 ヨシクラス
- 30 ウキクサクラス・ヒルムシロクラス

植林地・耕作地植生（各クラス域共通）

- 34 スギ・ヒノキ植林

- 37 竹林

- 39 落葉果樹園

- 42 畑地雜草群落

- 43 人工草地

- 44 水田雜草群落

その他

- 47 市街地

- 50 緑の多い住宅地

- 50 造成地

- 51 開放水域

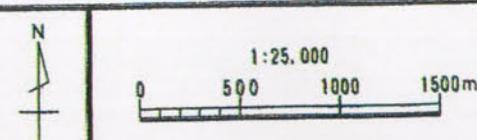


図 1-2-1 広域植生図(兵庫県)

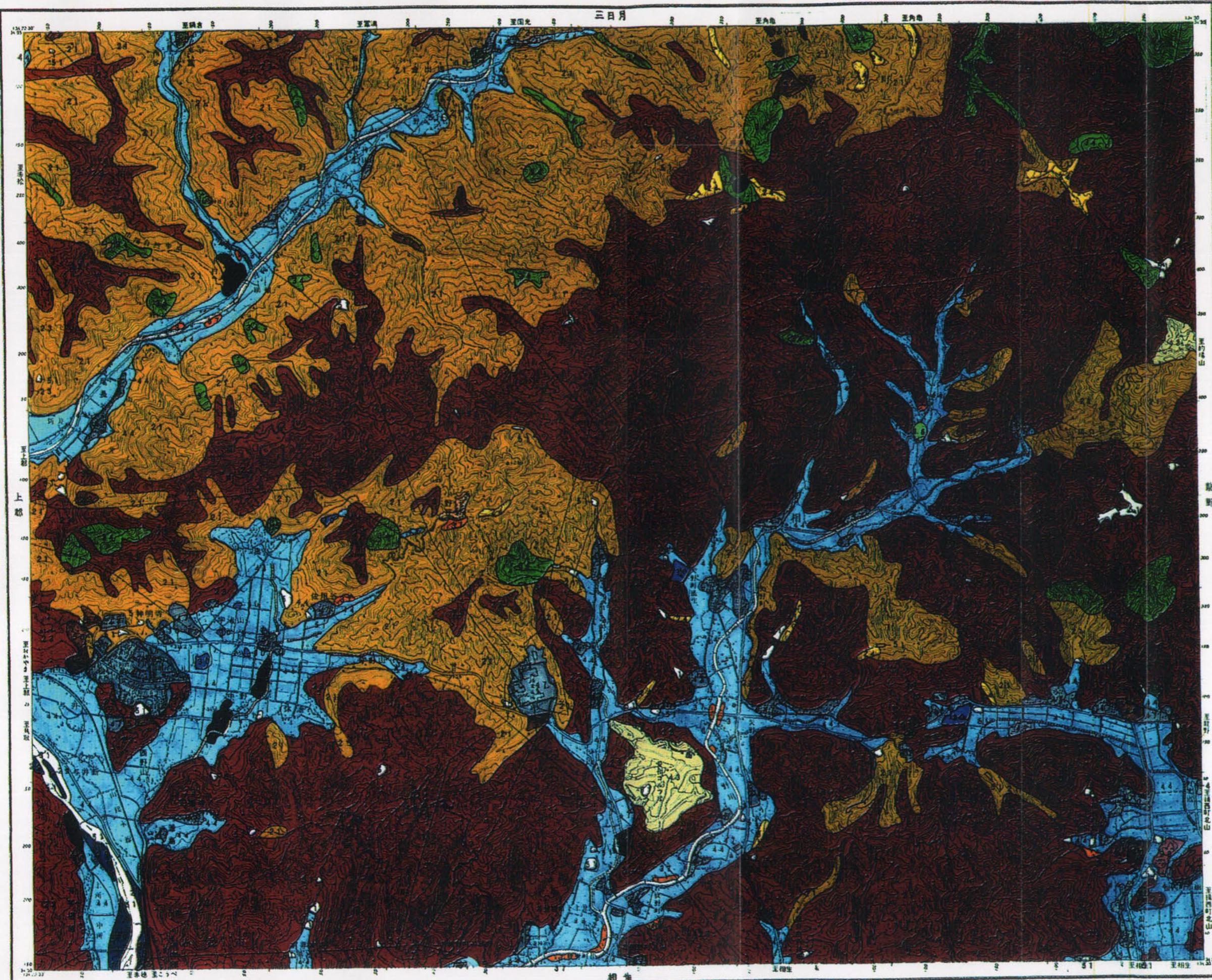


表 1-4-1 動物の確認種の状況（兵庫県）

分類群	第1回	第2回 (新規確認種)	第2回
哺乳類	4科5種	6科12種	10科17種
鳥類	28科69種	6科25種	34科94種
両生・は虫類	—	10科22種	10科22種
魚類	—	5科21種	5科21種
昆虫類	3科4種	184科1,095種	187科1,099種
合計	35科78種	211科1,175種	246科1,253種

## 1-5. 猛禽類の生息状況

### 1-5-1. 調査地点等

調査地点の位置図を図 1-5-1①～図 1-5-1③に、調査地の位置、調査日等について表 1-5-1 にとりまとめた。

各定点で少なくとも 10 分ずつ観察を行い、その際発見した時刻、猛禽類等の種類、性別、行動などを記録した。

表 1-5-1 調査地の位置、調査日時等

項目	詳細
調査地点（定点）	地点1：重点モニタリング地域P-1内の南部 地点2：重点モニタリング地域P-2中央部 地点3：重点モニタリング地域P-3内の南西部 地点4：上郡町本村山陽自然歩道沿い 地点5：上郡町奥北部山地 地点6：重点モニタリング地域P-1より西側の沢 地点7：相生市矢野町二木北東部山地 地点8：上郡町正福寺南東部ため池付近
調査日	平成8年度：各1日ずつ4回 1996年11月26日、11月30日、12月25日、1997年2月18日 平成9年度：各1日ずつ4回 1997年5月1日、5月29日、7月3日、9月29日

### 1-5-2. 調査結果

調査は平成8年度と9年度の2度にわたったが、平成8年度の調査結果については記載がなく、確認の位置図もなかつたため、ここでは省略した。

平成9年度の調査記録を表 1-5-2①～表 1-5-2③に示した。

平成9年度の観察数は 64 例（営巣の観察も含む）で、観察されたのはミサゴ、ハチクマ、オオタカ、トビ、サシバ、ハヤブサ、チゴハヤブサの7種であった。

これらのうち、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハヤブサの4種はレッドリスト鳥類に記載される貴重種であった。

